

変形性股関節症

股関節の軟骨が磨り減り、放置して進行すると歩けなくなり人工関節・骨切り術などの手術が必要になります。PSTR エクササイズによる的確な通院治療と自宅リハビリを行えばこの必要はなくなります。

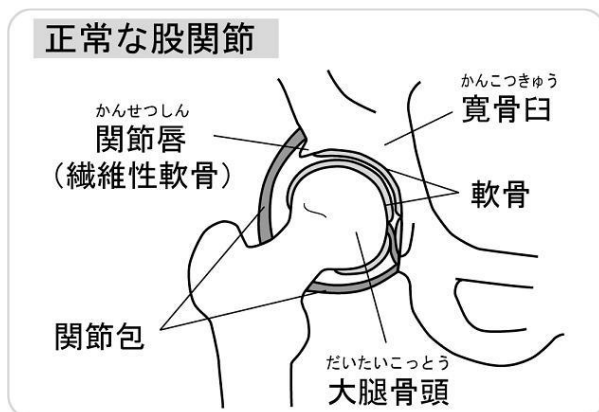


図 1 正常

軟骨には神経が存在しておらず荷重に対してクッション役になっています。変形性股関節症は、この軟骨が摩耗・消失していく疾患です。

日本での有病率：1.0～4.3%（100 万人～430 万人）

男性:0～2.0%、女性：2.0～7.5%で女性に高い

（変形性股関節症診療ガイドライン 2016、日本整形外科学会）

図 2：変形性股関節症の進展（二次性）



日本で最も多いのは先天性股関節脱臼や股関節の屋根部分（臼蓋：図1の寛骨臼に相当）のかぶりが不十分な臼蓋形成不全が長年放置された後に痛みが出現する二次性の変形性股関節症です（図2）。日本でもありますが欧米に多いものとして図1のように解剖学的異常（臼蓋形成不全は、ない）はないにもかかわらず股関節のクッションの役割を果たしている軟骨が磨り減っていく一次性的のものがああります。これには肥満や先天性の軟骨異常が原因のことがああります。

★前期は、臼蓋形成不全の診断名になります。

手術を検討する場合は、寛骨臼回転骨切り術は、前期に、人工関節置換術は主に進行期・末期に行います。